

【最近のこれはお見事！】

『赤色彗星倶楽部』

怪しげな学説を証明する為に奮闘する高校生達のお話。PFFアワード2017で日活賞と映画ファン賞を、第10回田辺・弁慶映画祭ではグランプリ受賞しており意外な拾い物感満載。

# シネマズライフ

たかぎ りおん  
貴樹 諒音

2018年2月16日発行 第139号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

## 映画の風景 日本の風景

※ 最高裁判所 ※

← 最高裁判所・東京都



『ワndaとダイヤと優しい奴ら』という映画があった。こんな映画だ。

悪党のジョージは、愛人のワndaとその兄・オットーと思案な相棒・ケンと組み、宝石店から宝石を強奪。倉庫の金庫に隠し、メンバーはバラバラに。しかし、ワndaとオットーは『兄妹』との触れ込みだったが、実は恋人同士だった。で、宝石を盗り取めするべく、密告電話をし金庫に宝石を取りに行くとなんと金庫から宝石は消えていた。ジョージは用心し、隠し場所を変えていたのだ。場所を知り、その鍵を持って困ったワndaは、早速、宝石のありかを聞き出せるかもしれないとジョージの弁護士・アーチャーと知り合う事に成功。アーチャーもワndaに興味を持ち、おかげでアーチャーは妻との仲が険悪になるが、ワndaも何かと嫉妬するオットーに嫌気が差してアーチャーを愛するようになっていた。

さて、ケンがジョージから犯行の目撃者を殺す事を指示されるが、ここはとく失敗！しかし、偶然に最後には成功するが、オットーが宝石の隠し場所を知っているケンを脅かし始める…。一方、アーチャーを利用してワndaはジョージから宝石の隠し場所を聞き出そうとするが…。

宝石をめぐる『悪いやつら』とおしとよしの弁護士が右往左往。結局、証人がいないのにも関わらず裁判所でワndaの証言でジョージは有罪になる。裁判とはそういうもの。証言とはそのくらい神聖なものなのだ。

日本も多くの人達の最後の審判として最高裁判所がある。その仕事を十分いかしてほしいと思うのだ。

『ワndaとダイヤと優しい奴ら』1988年 アメリカ  
製作総指揮 原作 脚本 出演：ジョン・クリーズ 原作 脚本：チャールズ・クライトン 製作総指揮：ステイブ・アボット  
出演：ジェイミー・リー・カーティス ケヴィン・クライン マイケル・ベイリン

究極の自己中男を演じケヴィン・クラインの姿人ぶりは映画史上屈指で、彼はこの映画でアカデミー助演男優賞を受賞した。

コラム

日本人が月へ行くかも…という件



↑ 東京湾の太陽と漁船

後編

射能無害化研究」が先だよな。

このほど計画されているのは、月を回る宇宙ステーションを作り、月面基地への補給なども日本が協力。その上、火星への中継拠点にもする予定だそう。これって…いつになるんでしょうね？(笑)

去年は太陽の黒点が少なくまったく無くなる時期もあったそう。これは太陽の元気が無くなったという事で異常事態だそう。

そうになると、やってくるのは『小氷期』、つまり寒い時期が増えるという事で、確かに数年前から段々寒くなってきたりするよう。『日本人が月へ行くかも…』その前に人類が凍りつかないような研究が必要かもしれない。

終



↑ 太陽の黒点

【最近のこれはお見事！】

『絵文字の国のジーン』いよいよ絵文字まで主人公にするのかよ！(笑)

ウィキペディアを参考にさせていただきました。m(\_ \_)m

★【最近のこれはお見事！】は見事な映画の題名の紹介、反して【最近のこれはお見事！】は「これは、まずいぞ！」と思う題名を紹介しています。





